

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 6 月 2 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3471503544		
法人名	株式会社 愛光園		
事業所名	グループホーム バラの家		
所在地	広島県福山市沖野上町1-3-11		
	電話番号	084-928-6123	
自己評価作成日	平成 29年 4月 17日	評価結果市町村受理日	平成 29 年 6 月 15 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい		
所在地	広島県福山市山手町1020番地3		
訪問調査日	平成 29 年 5 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアの研修・様々な研修に常勤・非常勤問わず職員が参加しケア向上に向け取り組んでいる。介護職として必要な知識、意識を持ち仕事に生かしていけるよう、毎月の会議でテーマにあわせた話し合いを行ない、又 ケアの統一に繋がるよう努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

近隣には、商店や病院、規模の大きい緑町公園(バラ公園)、大型スーパーなどがあり、利便性が良い。また、公園まで、気候の良い時には日常的に散歩をされる事で、その時々季節を感じる事ができ、楽しみごとと五感刺激になっている。ケア面に於いても個々の生活歴を大切に寄り添い、一言一言をしっかり受け止め、その人の思いを把握し、利用者との信頼関係を築き、一人ひとりの尊厳を大切にしたい思いやりのあるケアをするよう心掛けている。医療面に関しても訪問看護師が週1回訪問され、健康管理をされていて安心である。地域との関わりも散歩時には挨拶を交わし顔見知りの関係に努めると共に遠出の外出時には御土産を届ける等、近隣とのお付き合いを大事にされている。職員研修にも積極的に参加し、個々のスキルアップに繋がられ、質の高いケアに取り組まれている。家族との連携も密に行い、協力を得ながら、共に利用者を支え安全、安心した生活ができる様努められている。管理者をはじめ、職員も礼義正しく、言葉かけも優しく、明るい笑顔で接している。穏やかで家庭的な雰囲気の事業所である。 今後は、地域に開かれた事業所となる事に期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝と夕方の申し送り時には理念の唱和を行い常に意識するように務めています。	基本理念を、朝、夕の申し送り時に唱和され、日々のケアを振り返る機会とされている。玄関の誰もが見える場所に掲示もされている。常に理念を意識し共有され実践する様、事あるごとに周知し、日々のケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩へ出かけた際、地域の方と挨拶を交わしたり外部からのボランティアの方のも来て頂いています。自治会へは参加し、年に2回の草取りや中学生のチャレンジウィークの受け入れも行なっています。	地域の清掃活動やボランティア、中学生の体験学習の受け入れ等、積極的にされている。又、散歩時には挨拶を交わし顔見知りの関係に努めている。今後は町内に事業所から積極的に交流の発信を行い地域の一員として地域貢献と地域資源の活用に努める。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を利用してキャラバンメイト養成講座を行なっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での取り組みや事故報告などをお伝えし、ご家族様からのご意見を頂いています。ご意見には、出来るだけ早い対応を心がけています。ご出席して頂けるご家族様が決まっているため、会議内容への工夫が課題となっています。	家族複数名と必要な関係者の出席の下、現状や取り組み状況、ヒヤリーハット等多岐にわたり報告し、意見交換の場とし、分野の違う方々の意見や要望を得、サービスに活かしている。勉強会の場となる事もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方には日々、不明な点などへの助言を頂いたり、定期的に運営推進会議に訪問があります。	困難事例や疑問点等があれば出向き、アドバイスや情報提供等を得ている。又、行政担当者が定期的に訪問されるので、その時々の実情を伝え協力関係ができる様努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議で身体拘束廃止委員より現状報告がある。やむを得ない場合のみご家族様の同意を得て行なう事も周知している。また玄関・フロア施錠は行わず、モニターを常に確認をする様にしていきます。	基本拘束はしない方針であるが、やむを得ず、転倒リスクが生じた場合は、家族や職員と方向性を話し合い、工夫しながら対応する様取り組まれている。研修も定期的に行うと共に身体拘束委員会もあり、現状を常に話し合い拘束のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	アンガーマネジメントの研修に参加しお声かけや何が虐待にあたるのかを日々意識しながらケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会資源を利用されているご入居者様もおられることで、管理者だけでなく、職員にももっと理解してもらおうことが、課題となっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、時間をとり詳しく説明を行ない、十分ご理解がいただけるよう疑問点等への説明を行なっています。やむを得ず退去される場合もしっかりと話し合い、ご不安がないように努力をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時や電話連絡の際、事業所から「何かお困りになる事は御座いませんか？」等、声掛けをさせて頂いています。また、玄関口へ「ご意見箱」を設置しており、ご意見を頂くようにしています。	訪問時や電話等で把握したり、運営推進会議でも気軽に意見や要望が出る。又、月1回現状報告を写真を添えて送付している。その中でも要望の問いかけもされ、あらゆる場での意見要望は反映させると共に個々に対応している。アンケートも取られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員には声を掛け意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに勤めています。	申し送りノートに気付きや意見等を記載する体制であり、検討すべき案件は全体会議で情報収集し検討している。日々声かけをされ、意見や提案の把握に努めている。職員の意見を大切にしている。個人面談の機会も持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価・事業所評価を行い、賞与等賃金に反映しています。毎月希望休・希望勤務を取り入れ勤務中に腰痛予防やストレス対策として外部より専門職が訪問し、身体メンテナンスを取り入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのケアに対する力量、考え方を見ながら1人ずつの性格にあった指導を成るべく行なうようにしている中で、不十分な部分が見られたときには、その都度 指導を行なうようにしています。職員同士、注意や声かけが出来るよう呼びかけをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加やGH同士の相互研修を行なうなどの取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご様子を見ながら傾聴したり、ご要望があるときは、出来る限り添うようにしています。困難な場合は、ご安心いただけるような言葉かけや関わりを持つように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご要望、ご希望に成るべく添えるように努めさせていただいています。ご面会時やご訪問時に、事業所のほうより、お困りごと等がないかお尋ねするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時点でご本人様の思い、ご家族様の思い、を伺いケアプランへ反映するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事はして頂くように言葉かけなどをし、自信を持っていただけるような支援・また家事など役割のある生活を送って頂き、感謝の想いを伝えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や、日用品を持って来ていただいたり、成るべくご家族との関わりが減少しないよう努めています。ご面会時にはご本人様の近状をお伝えしたり、その月のご様子を月始めにご家族様へ手紙や写真でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・ご友人とのご面会にご家族様へ確認し了解を頂いている方については、自由にご面会をしていただいています。お手紙等が届いたらご本人様へお渡ししています。	気軽に訪問出来る雰囲気づくりをされ自由に来てもらい家族や友人と過ごせる時間を大切に心を掛けている。自宅に日帰りする方もいる。希望で以前住んでいた場所に行ったり馴染みの美容院や馴染みの公園に行く等、柔軟な支援をし、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者さま同士で、娯楽を楽しんでおられます。認知症状からトラブル・又大勢が苦手な方もおられるので、席の配置には配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された施設からの問い合わせ、ご家族様からの問い合わせ等にも可能な限り対応しています。ご家族様よりお手紙など送って頂くこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者さま一人一人に目配り気配りを心がけて支援させて頂いています。想いが伝え難い方へは、表情やご様子で想いをくみ取るように努めています。	個別対応時(入浴、居室)や日々の会話の中で把握し対応している。表出困難な方には表情やしぐさで判断し、検討しながら可能な限り想いに沿う様努めている。広告を見て食べ物の要望がでることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような環境で、どのように生活をしてこられたのか、センター方式を用いてご家族様ご本人様にお聞きし、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、介護記録への記入、様子観察からの把握に努めています。体調不良時は看護師と連携し対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファを定期的に行い、職員からの意見やご本人様の意見を取り入れケア変更の実施、モニタリングを行っています。	日々の記録や3ヶ月毎のモニタリング、主治医の所見を基に定期的カンファレンスを実施し、職員間で話し合い、家族、本人の要望も取り入れ作成している。見直しは個々の状況に合わせて定期的にされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体に関することは「医療ファイル」その他の気付きなどは「申し送りノート」を活用し必ず目を通し情報共有をするようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々表情やお気持ちに変化がみられ、ご様子が変えられることもあります。ご入居者さまに合わせた臨機応変な支援をいっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緑町公園へのお散歩やお買い物がお好きな方はスーパーへのお買い物へ一緒に行っています。福山城へのお花見・ご家族様の協力の下遠方への日帰り旅行を行ないました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診希望の方には週1回往診を受け、受診希望をされる方はご家族様と協力し受診をしています。どちらも体調変化時には相談できる関係です。また、訪問歯科・皮膚科も往診がありご利用者様に必要な適切な対応が受けれています。	協力医療機関の往診が週1回あり、訪問看護も週1回訪問され健康管理がされている。かかりつけ医の方は基本家族対応であるが、状況により受診支援を柔軟にしている。訪問歯科支援もあり口腔ケアも週1回ある。他科についても依頼により訪問支援ができる体制となっている。常に適切に対応出来、安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化があれば職場内の看護師、また医療連携の看護師に報告し指示を仰いだり、訪問看護で処置対応を受けています。また、他職種との連携助言を受け、支援へ繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が病院でも安心して治療を受けやすいよう日々のご様子の情報提供をしたり、入院中ご面会に伺いながら、状態が落ち着いたら成るべく早期に退院が出来るよう病院側も配慮してくれています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階毎にご家族様や関係者でのカンファレンスを開催し方向性を皆で話し合うようにしています。	利用開始時看取り指針を基に説明し同意を得ている。状況変化が起きた場合は主治医から家族に説明され、家族、主治医、職員等で話し合い、方針を共有し、関係者の協力を得ながら家族、本人の思いに沿った支援に努めている。体験もされている。又、研修も看護師の指導の下実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをユニットで随時閲覧が出来るよう設置しているので目を通し、把握をするよう指導しています。AEDを設置し、使用法の講習をうけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回 火災訓練・避難訓練をしています。マニュアルをユニットで随時閲覧が出来るよう設置しているので目を通し、把握をするよう指導しています。が、地域との協力体制が充分とはいえないのが課題となっています。	消防署指導1回、自主訓練1回、日中、夜間を想定し、消火、避難、通報等の訓練をしている。マニュアルも作成し、目につきやすい場所に置かれ、全職員が常に見る事で理解を深め不安なく、速やかに対応出来る様周知している。	災害に関しては地域との協力は大切であり、訓練の案内を近隣に配布し、協力をお願いをしていられる事と運営推進会議で議題とし意見を頂きながら、協力体制強化に対応出来る様周知している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者を敬う気持ちを忘れず言葉使いには気を付けています。尊厳を大切にすることは事業所理念の一つです。	理念にも掲げられ、個々の尊厳を大切にした支援を心掛けている。また、個々の生活歴を把握しその人に合わせた声かけや対応をするよう全体会議等で事例を基に周知している。記録等についても適切に管理させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択、起床、就寝、トイレ、嗜好品など自己決定が出来る方には言葉かけをし、伺っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余程のことがない限り、ご本人様さまのペースに寄り添った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりのある方、無い方とおられますが、身だしなみの支援をさせて頂いています。男性のご入居者さまの髭剃りなども言葉かけや支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お味噌汁の具材切り、お茶碗拭き、おしぼり巻き、月に2回手作りデーの時には、一緒に準備や食事作りをしています。食事前の口腔体操も毎日取り組んでいます。	同じ物をテーブルを囲み、食を促す声かけをしながら和やかな食事時間となっている。月2回の手作り食事づくりには下ごしらえや準備等を一緒にされ、個々の力量発揮の場面作りをし、張りのある生活に繋がられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食意低下が見られる方は主治医やご家族様へご相談をし、栄養補助食品を利用したり、食事形態の変更をして量やバランスを確保できるようにしています。水分は1日トータル量を記載し、把握調整している中、少ない方はお好きな飲み物をご提供し水分の確保をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの言葉かけや援助を行い必要に応じて、歯科より口腔ケアの実施を受けていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご入居者さまの排泄パターンに合わせ、トイレ誘導を行い、失敗の減少を目指しています。日中はオムツの方はおられず、トイレでの自然排泄を可能な限りさせて頂いています。	日中はトイレでの排泄が基本となっていて個々の排泄パターンに沿って、トイレ誘導されている。座位や立位をする事で機能維持にも繋がられると共に気持ち良く排泄できる事を大切にされた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を提供したり、身体を動かして頂き便秘予防の運動をし、自然排便が行なえるよう務めています。困難な場合はお薬を服用して頂いてます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにされておられる方、また逆にお好きでない方は、お体を拭かせて頂いたりドライシャンプー等を使用して個々に添った支援をさせて頂いています。	曜日や時間設定はなく、本人の希望で自由に入浴してもらっている。拒否の方には入浴剤を入れる等工夫やタイミングを見ながら対応し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマへの更衣を拒まれた時は無理強いせず、翌朝に更衣して頂いています。居室ドアの上部より入ってくる明かりを気にされる方には紙を貼り明かりを塞いでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をしっかり確認し理解に努めています。服薬提供ミスのないよう、日付、名前、時を声に出し2人確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カルタやトランプなどの集団レク、折り紙や歌、塗り絵などの個別レク、をご入居者さまに合わせ支援させて頂いています。居室へは冷蔵庫を置かれておられる方、コーヒー等をご自分で作られ飲まれる方もおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との外出、外泊はご自由にして頂いています。職員同行の外出は、状況を見ながら近所へ買い物や散歩の支援をしています。花見やご家族様の協力で日帰り温泉に出かけました。	近くの公園への散歩やお城までお花見に行かれたり、又、近隣のバラ公園に満開のバラを見に行かれる等、折々の季節を感じてもらう事と五感刺激、気分転換となる支援に努めている。また、家族の協力を得て家族同伴の日帰り旅行にも出かけ、楽しみと思いつくり繋げられている。時には屋上で日光浴をする事もあり、外気に触れる機会も持たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はトラブルの原因となり得るので、ご家族さまにご理解頂き、所持はして頂いておりません。お買い物をする時は立替でお支払いをしています。中には、「かけはしを」利用されておられる方から毎月お小遣いをお預かりし、好きな品を購入されておられる方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様より「電話をしておいて」とご要望があり、かけさせていただきますが、直接お話をされることは少ないです。ご遠方のご家族様よりお誕生日などで電話を下さるときにはやり取りができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分に毎月のカレンダー(手作り)を飾っています。季節に応じての飾りなどご入居者様と一緒に作成しています。室温もご入居者さまに合わせた温度調整をしたり、寒い時期は暖房で乾燥しやすいので、濡れタオルを各お部屋にかけて室温湿度調整に配慮をするようにしています。居室ドアの上部分の明かりにも配慮をしています。	ソファやテレビもあり、壁には外出時やイベント等の写真が貼られ、時折見る事で懐かしさを感じてもらえる事ができる。季節を感じる装飾品や利用者が書かれた素晴らしい絵などもある。手作りカレンダーで時の認識に繋がれると共に家庭的な雰囲気である。不快な匂いもなく快適に過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者さま同士の談話がしやすいようにテーブル配置をしたり、窓際にソファを置きゆっくりと過して頂ける空間作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持って来ていただいたり、ご自分で描かれた絵画、宗教に関する写真など、心地よく生活していただけるようにしています。時には居室でご入居者様同士で談笑されておられる時もあります。	使い慣れた家具やテレビが持ち込まれ、趣味で描かれた絵等も飾られ、家族との思い出の写真もあり、その人らしさが感じられると共に使い易く工夫され、穏やかに落ちついて過ごされる様、配慮されている。和室の居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「便所・トイレ」と書いた紙をはっており、居室入り口には、お名前のプレートを掛けています。居室内では、つたって移動が出来るように椅子などを設置したり、トイレには足置き台を設置しています。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらい				②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい			○	③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが			○	③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		①ほぼすべての利用者が				
		○	②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

事業所名: グループホーム バラの家

作成日: 平成 29 年 6 月 13 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流が少ない	地域との交流を深める	町内会の集まり等に可能な限り出席をし、当施設を知って頂く	6ヶ月
2	4	運営推進会議の参加者が限られている	日頃来られない方に参加して頂く	興味を持っていただけるような内容を考える	1年
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。